

第 1 回 築川流域懇談会

議 事 録

平成 16 年 10 月 21 日

於：サザンパレスフォルテ

開催日時

平成 16 年 10 月 21 日

13 : 00 ~ 17 : 00

開催会場

岩手県盛岡市茶畑 1 丁目 20-23 サザンパレスフォルテ

出席者

懇談会委員

(敬称略)

No	氏名	所属団体	職名	備考	出欠
1	あべ きよみ 阿部 清見	盛岡市町内会連合会	柳下町内会会長		出席
2	いしかわ としこ 石川 トシ子	J A 盛岡市東部支所	女性部		出席
3	うちだ なおひろ 内田 尚宏	N P O 法人北上川流域連携交流会	理事		出席
4	おかだ しゅうじ 岡田 秀二	岩手大学農学部	教授		欠席
5	さかい しげき 堺 茂樹	岩手大学工学部	教授		出席
6	さわぐち ただし 澤口 忠	盛岡市町内会連合会	根田茂心和会会長		出席
7	さわぐち はるお 澤口 春夫	盛岡市消防団	第 18 分団長		出席
8	せきやま ひさへい 関山 房兵	猛禽類生態研究所	所長		出席
9	たかやま さだこ 高山 定子	中野小学校 P T A	会長		出席
10	ちば としのぶ 千葉 利信	盛岡市町内会連合会	片岡町内会会長		出席
11	なかむら ただし 中村 正	岩手県自然保護協会	常任理事 事務局長		出席
12	ふじわら せい太 藤原 誠太	公募			出席
13	ほそや さだお 細矢 定雄	公募			出席
14	みわ はじめ 三輪 式	岩手大学農学部	教授		15 - 30 出席
15	もり のぶ 森 ノブ	盛岡市都市計画審議会	委員		欠席
16	やはた つくこ 八幡 諒子	公募			出席
17	よしだ きゅうこう 吉田 久孝	盛岡河川漁業協同組合	代表理事組合長		出席
18	よしだ きんじ 吉田 謹二	三和水利組合	組合長		出席
19	よしだ しんいちろう 吉田 新一郎	盛岡市町内会連合会	川目上躍進会会長		出席
20	よしだ としかず 吉田 俊和	盛岡市森林組合	代表理事組合長		出席

岩手県（河川課、盛岡地方振興局、築川ダム建設事務所）

No.	氏名	所属	役職
1	若林 治男	岩手県県土整備部河川課	担当課長
2	榎山 護	岩手県県土整備部河川課	主査
3	及川 隆	岩手県県土整備部河川課	主査
4	馬場 聡	岩手県県土整備部河川課	主任
5	佐々木雅章	岩手県県土整備部河川課	主任
6	佐々木克幸	岩手県県土整備部河川課	主任
7	浅沼 英美	盛岡地方振興局土木部	部長
8	及川 和男	盛岡地方振興局土木部	河川砂防課長
9	豊島 和美	築川ダム建設事務所	所長
10	成田 潔	築川ダム建設事務所	次長
11	小関 司	築川ダム建設事務所	主査
12	石川 幸洋	築川ダム建設事務所	主任
13	佐々木直実	築川ダム建設事務所	主任
14	山本 純一	築川ダム建設事務所	技師

盛岡市

No.	氏名	所属	役職
1	藤村 裕蔵	盛岡市下水道部	次長

一般傍聴者：9名

報道機関：5社

懇談会

1. 開会

- ・開会宣言

司会（盛岡地方振興局土木部河川砂防課 及川課長）より開会宣言

- ・配布資料確認

司会者より配布資料の確認が行われた。また八幡委員より資料が配布された。

2. 挨拶

盛岡地方振興局土木部長 浅沼氏より挨拶

ただいま、ご紹介にいただきました盛岡地方振興局土木部長浅沼でございます。

本日は、非常にお忙しいなか、委員の皆様にはご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、本懇談会に先立ちまして委員の皆様へ委嘱をお願いしましたところ、快くお引き受けいただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。この懇談会は、平成9年に改正された河川法により設置するもので、盛岡東圏域の河川整備計画作成にあたって、築川に関しての学識経験者や関係住民のご意見をお伺いするものでございます。

築川は、皆様もご存知のように平成14年7月の台風6号では、築川下流部の堤防が壊れ、決壊寸前まで被害を受けた、履歴がございます。また、現在は築川ダム建設事業も進められているところでございます。このような現状を認識しながら治水・利水・環境などの面から、今後20年から30年の河川整備をどのように成すべきか、さまざまな視点からご意見をお聞かせ願えればと思っている次第でございます。

簡単ではございますが、開催の挨拶をさせていただきます。本日は宜しく願いいたします。

3. 委員紹介

- ・委員紹介

司会より着席テーブル順に出席委員が紹介された。

- ・事務局紹介

司会より事務局が紹介された。

4. 流域懇談会設立趣意について

事務局小関総括主査より「築川流域懇談会」設立趣意書【資料N o. 1 (P4)】について説明。

5. 流域懇談会規約について

事務局小関総括主査より「築川流域懇談会」規約（案）【資料No.1（P5）】について説明。

司会

「築川流域懇談会」設立趣意書及び規約（案）についてご意見・ご質問ございますか。

各委員

意見・質問なし

6. 会長の選出について

委員からの立候補がなく、事務局より岩手大学工学部 塚教授が推薦され委員の賛成を得た。
会長（岩手大学工学部 塚教授）より挨拶。

塚会長

岩手大学の塚でございます。せっかくのご指名ですので、会長を務めさせていただこうと思っておりますが、お引き受けするにあたりまして一つだけお願いがございます。

この懇談会には様々な立場の方が委員として参加しておられますが、皆様の立場というものが場合によっては、川あるいは流域をみる観点の違いにもなっておりますので、そういう意味ではここにいらっしゃる皆様は様々な意見をお持ちだと思います。従いまして、皆様が普段、思っていらっしゃることを忌憚なく意見を述べていただくというのは当然のことではありますが、それと同時にご自分の観点からのご意見だけを述べられるのではなくて、他の委員の立場の観点で見た場合、皆さんがどう考えるかを、この懇談会を通してじっくり考えていただきたいと思っております。いろいろな観点に立ってお互いに意見交換をするということを通じまして、最終的には皆さんが一致し、共通した認識に立って最終的には懇談会として統一的な見解に達したいと、そういう風に考えておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。宜しくお願いします。

7. 現地調査

葛西橋～付替国道5号橋～ダム建設予定地～クマタカ・ヤマセミ営巣地付近（片貝橋）～根田茂川上流端の順に視察 【13：30～15：10】

- サザンパレスフォルテ（懇談会会場）を出発。
- 葛西橋付近、車中にてH14.7台風6号洪水の堤防崩壊状況を説明。

吉田（久）委員より質問

- ・ このところの大雨等で葛西橋下流右岸側の樋門わき護岸ブロックがはがれた。はがれた堤防の中身については解らないがこの状況で大丈夫なのでしょうか？
- ・ H14.7の台風6号で決壊しそうになった堤防が河川改修後の草等（緑化されない）が生えないのは何故か？
- ・ H14.7の台風6号では自動車学校側に流水があたり、はね返った流水が堤防を壊したのではないか？

小関総括主査

- ・ ご指摘いただいた点につきまして調査して対応を考えていきたいと思えます。
- 葛西橋より国道106号を区界方面に走行。ダムによる水没予定地の集団移転地、沢田浄水場取水施設を説明。
- 付替国道5号橋、バスより下車し付替国道の概要、工事進捗状況等を説明。
- ダム建設予定地、車中にて現場状況視察。
- クマタカ・ヤマセミ営巣地（片貝橋）付近、車中にて工事中におけるクマタカ・ヤマセミへの配慮、モニタリング等について説明。
- 主要地方道盛岡大迫東和線を根田茂川上流に向かって走行。建設発生土受入地や築川流域の概要を説明
- 根田茂川上流端、車中にて現地状況を確認。
- 根田茂川上流端にて折り返し、貯水池の範囲（洪水調節時の最高水位E L 299.0m地点）について説明。
- 主要地方道盛岡大迫東和線から国道106号に戻りサザンパレスフォルテ（懇談会会場）へ到着。

8. 議事

議事に入る前に一般傍聴者の関千尋さんより資料が配布された。

- 1) 流域懇談会の位置付け
- 2) 流域の概要
- 3) 流域の変遷と現況
- 4) 治水の状況
- 5) 利水の状況
- 6) 流域の環境
- 7) 河川意識調査の結果

上記 1) から 7) について事務局（築川ダム建設事務所小関総括主査）より、資料 No. 2「第 1 回 築川流域懇談会」のスライド（パワーポイント資料）を使用し説明。

8) 意見交換

堺会長

それでは、先ほどの現場を見せていただいた時にお気づきになったことや、説明のあった 7 項目につきまして、ご質問ございましたらお願いします。

関山委員

資料 No. 2（P. 24 下段）の中に築川流域に生息する昆虫類として、「オオチャバネセセリ」とあるが、確認してください。

事務局（小関総括主査）

オオチャバネセセリの誤りです。

八幡委員

今日、流域を見てきたが、皆で流域を見てまわることは大変意義のあることだとは思いますが、案内の担当者が、川の事をあまり知らないのではないかと思います。今後続く流域懇談会のなかで、治水対策により今の川や周辺環境がどのように変わっていくのかを、予測に基づいたシュミレーションを是非見せていただきたい。そうでなければよくわからないと思う。

堺会長

この後、意見交換の時間がありますので、今の時間は質問に限らせていただきます。

八幡委員

新聞記事（資料 No. 2 P. 17 下段）の中で岩手県の濁水についての記事があったが、築川についてはどうですか。

事務局（小関総括主査）

この新聞の記事につきましては、県内の濁水被害の状況です。

八幡委員

築川の流域について話合うのだから、築川の情報を提供することが大事だと思う。県内の川もそうだったから、築川もそうであるという考えは実態にそぐわないと思う。平成 2 年の洪水の際に川の水が橋の上を越える写真(資料 No. 2 P. 13 下段)があったが、私が聞いた話では、河川工事中の鉄板が川の流れをせき止めた為、国道に冠水したのであって、流量が増えたため氾濫したわけではないと聞いているが、この写真の取り扱いはおかしいのではないか。

事務局 (小関総括主査)

国道 106 号に冠水した事実があります。ご指摘の通り、河川工事の仮設物の影響で冠水したと認識しております。

写真につきましては、これは工事箇所上流の橋でございますので、河川流量そのものの写真でございます。

吉田 (久) 委員

この話につきまして、当時工業団地を造成していたため、仮設橋があった。しかし仮設橋は一段低く、上流から流れてきたものがそこに引っかかってせき止めた為、水が国道に溢れたというのが付近住民の認識です。

事務局 (若林河川開発担当課長)

写真に写っているのは宇津野橋の写真です。今、八幡委員からお話がありましたのは、新たたら山橋、今の工業団地のところで、国道 106 号が冠水した、というところ。場所が違うということを確認していただきたい。

吉田 (久) 委員

この写真は仮設橋だと思いますよ。

事務局 (小関総括主査)

我々はこの写真を宇津野橋だと認識していたのですが、確認します。

堺会長

そのようにしてください。

内田委員

生息するおもな魚類(資料 No. 2 P. 24)ということですが、主な魚類というよりは、むしろスナヤツメ、ギバチは、きれいな水に生息する希少なものなので、当然基礎データとして、ここに生息するという生き物は調べてあるということによろしいのでしょうか。

事務局 (小関総括主査)

これ以外にも一般的な魚は確認されております。

内田委員

できれば、環境を語る場合、基礎データは正しく出ていると語りやすいので、添付していただきたいと思います

堺会長

ごもっともなご指摘です。懇談会が今後、何回かに分けて行われる予定ですが、環境がテーマの時には、きちんとしたデータを用意するよう事務局のほうにもお願いしたいと思います。

他にご質問ございませんか。

後で、ご質問あれば結構ですが、せっかく今日お集まりいただいたので、皆さんから一言ずつ、築川・築川流域についてどのように思っているか、あるいは本題である整備方針として、どのような事に注意すればいいのかを、みなさんにお聞きしたいと思います。ただ、人数が多いので時間にしますと一人2分ぐらいが限界だと思います。今日はアイウエオ順に並んでいらっしゃいますので、並んでいる席順で一言お願いしたいと思います。

阿部委員

私は25年ぐらい前まで葛西橋と片岡橋の中間点付近に住んでおりました。その頃に私の宅地が45坪ぐらい流された経験をしております。現在は護岸工事がされて河川敷になり買収され、既に私の所有地ではありません。そのような場所に住んだ経験から、台風や洪水の恐ろしさについては身にしみております。現在は中野小学校校庭近くにあった田を農地転用し、移転して現在住んでいます。これまでの築川の洪水を全て体験し記憶しております。以前にありました平成14年の6号台風の際は怖い思いをしました。護岸工事が未だ不十分ですとダム完成するまでの間は危険な状況が続きます。ダム建設については色々なご意見がありますが住民の立場で意見を申しますと早急な護岸整備、ダムによる水量調節の必要性を感じる。様々な資料等を見るとダムが全く役立たない説もありますが、今日の川の水量を見ますと葛西橋から根田茂川の間は他から流入する沢や河川も無く、本流の水量調節機能は有効と思われます。

石川委員

J Aからの推薦で参りました。盛岡に住んで35年になります。葛西橋が流れた事は姑から聞いております。記憶が定かではありませんが、台風の翌日に東部支所巡りで根田茂川から砂子沢までを歩きました。そのときは築川が氾濫し道路まで水しぶきが上がっておりました。J A女性部ではその光景から川のあり方について考えさせられました。

内田委員

N P O法人の北上川流域連携交流会に属している内田と申します。私たちは川を生かした地域づくりを目指して活動を行っております。その中で私は河川環境委員会に属しており特に川の持つ意味、環境学習の意味について、子供たちと川とのつながりを通じて川を知ってもらうことで地域づくりにどう反映していけるのかを検討しております。その意味で今、川を見直す時期にきていると思います。現地調査で川を見てきていい環境が失われていく事を残念に思いました。しかしこれは感情的な意見であって、実際の治水利水の場面で河川法は変わり、事業をどうやって行くのかについ

て市民の立場に立って考え話し合っていきたいと思います。

澤口（忠）委員

根田茂地区では小さな集落を2つに分断され残された住民は困っている。集落を出た人の中でも田畑を失って年寄りの仕事が無く、ボケるような状態です。先日お祭りを催しても経費がかかるので、取りやめるかどうか討議がなされました。経費の分配は世帯数で割ると高額な負担になり、何も出来ない状況です。ダムの高さも低く変更される話を聞いておりますが、当初湛水計画に基づいて買収された用地が残ります。そこで地域住民が懸念するのは万一火災が発生した場合、砂子沢や根田茂地区は相当な被害が予想されます。残った土地の管理について県に検討して頂きたい。道路の見学会の際に、ダムの高さが2mほど下がる件に関しては、8月頃に結論が出る話があったがその後の情報を知らせてほしい。

澤口（春）委員

18分団の消防団からの意見としては火災が心配されます。それは河川改修を行うと消防車が川に近づけない状況になります。国道の付け替え道路は高い位置にルート変更され、ますます水の便が悪くなる一方です。そのような高い場所での消火活動が行えるように、道路わきの沢に入り込んで取水できるような樹状の消防用水等を設置する事も検討頂きたい。

関山委員

私は築川ではなく北上川の四十四田ダムの近くで育ちました。高校生の頃から釣り好きで築川や根田茂川によく入っており、その変貌ぶりは感じております。また本日出席しております中村委員のお手伝いで根田茂川の源流を散策した事もあります。様々な経緯もありこの川については感慨深いものがある。全国の川の状況を見ますと川との付き合い方がその地域にとっての大きな課題で、築川についてはダムを造るか否かが当面の問題ですが、私個人の感想では造らないで済むのならばそうしたい。河川は魚類だけでなく生物回廊いわゆる山から海に至るルートをもダムは分断してしまうものです。教科書にある河川営力があり侵食、運搬、堆積に貢献する自然の営みを食い止めてしまいます。生態系全体が変わることは目に見えています。従って現代的にダムのもつ役割を洗い直していくのは世界的な流れであり、このような視点から議論する必要がありますが、既に事業は着手されており難しさを感じております。

高山委員

中野小学校PTAの高山と申します。中野小学校では毎年2月に鮭の稚魚を放流する活動を行っております。4年生では総合学習の中で築川探検隊という事で、今度の土曜日に学習発表会において築川について発表予定です。平成14年度の堤防決壊においては集団下校となり活動センターなどに誘導した経験があり、そのような事態が発生しない事を立場上願っております。子供たちの環境と安全に適した川であって欲しいのがPTAの願いです。配布資料や皆様の意見を基に、PTA内においても意見聴取してこの場に持ち帰りたいと考えております。

千葉委員

片岡町内に住む千葉と申します。昭和50年にこの地へ移り住み、昭和56年の洪水が記憶にあります。平成14年の洪水で築川の河川改修が未改修で三和用水の水路の上まで水が上がりました。下流部では被害が少ないと想定していましたが、北上川との合流部付近で左岸護岸が決壊寸前になった。付近は散歩でよく通るが右岸側の橋より上流10m付近に石を積んでいるが、それが災いして左岸側の堤防が削られたのではないかと考えている。現在では災害復旧工事が済み心配ないが、ある一定の貯水量を確保できるダム建設に関しては、私自身の意見は賛成です。下流に住む者として水量の調整を図って頂ければと考えております。

中村委員

自然保護協会の事務局をしております、盛岡に生まれ盛岡に育ち土地勘はあります。

築川といえば築川郵便局、根田茂といえば根田茂・砂子沢といった感じで、葛西橋から下流の築川のイメージは自分の中では薄く、築川とはその程度の関わり具合かなと思っております。今回の設立趣意書の中で引っかかる事があります。それは先程現地を見てさらに感じました。築川は盛岡市街地を還流する都市河川とある、私の認識不足の点もあると思うが都市河川の言葉が適当かどうか疑問に感じました。懇談会の設立をするための設立趣意書としては適当かと思うが、今後いろいろな意味で話が煮詰まってきた時には懇談会の趣意書を整備されれば議論の的も絞りやすいと考えます。

藤原委員

市内において養蜂場を営んでいる藤原と申します。区界の手前の飛鳥地区で日本古来の在来種ミツバチを増やす仕事をしている。付替道路は大きな橋梁も出来ており、道路は80km/h程度の走行速度と聞いている。現道の飛鳥地区までの道でもかなりの野生動物の死骸が目立つ、できる事ならばカナダやアメリカのように高速道の下に土管などを設置して獣道を造って動物の保護を検討願いたい。主な哺乳類とかが資料にあるが、ここにあるのは環境の変化を受けやすい動植物を挙げている。そのような例を挙げるならば日本ミツバチも挙げて欲しい。殺虫剤を吹くだけで20m先のミツバチの巣箱が全滅する事もあります。先日飛鳥地区に無農薬の田んぼをつくりました。隣接する低農薬の有機農法と聞いていた田からはミツバチは居なくなり、無農薬の田から水を飲みに移動しました。普通に飼われていないミツバチですから、水質とか森全体のボリュームとかがわかるかもしれませんので今後注目していきたい。

細矢委員

根田茂出身で現在川目に住んでおります。地元住民の立場で申すと伝説と風土資産（滝、石）が豊富な地区です。来年1月からNHKの大河ドラマで義経が放送開始になるが、この地には弁慶ゆかりの石碑がある。また安倍貞任は、厨川の柵で歴史上は死んだ事になっているが、築川流域を越えて兜明神で余生を送った伝説もあります。また天狗伝説は川目、根田茂、築川にもある。ダムはハード面が論議されるがソフト

の面で澤口委員が危惧しているように村が半分無くなり死んだようになってしまった、そんな事が無いような地域づくりをして欲しい。そのために色々提案できることをしたい。桃源郷づくり岩手県民運動に参加しているが花木を植えて、潤いのある街づくり村づくりを目的にしており、是非この運動をダム建設に関係付けてできればと考えております。さまざま沢山の希望をもってこの会に臨んでおります。

三輪委員

岩手大学農学部の上輪と申します。盛岡にきて25年になります。築川について上流部はわかりませんが、平成14年の洪水の際に原因調査を行いました。流域全体の整備計画に関してはあまり詳しくありませんが、具体的な話で通常時の河川流量をならしたい時に河道をどのように計画するのか、蛇行している場合にどのように低水路の線形を計画したらよいかとか、護岸をどこに設置するのかという分野ですと詳しいです。築川については詳しくはありませんが、北海道から鹿児島まで日本全国の川は勉強しておりますので、その知識は色々な場面で助言できると思います。

八幡委員

盛岡市民になり7年ほどになります、野鳥の会の活動をしております。自分のフィールドを探しておりましたが発見したのが根田茂、砂子沢地区でした。その日は偶然にクマタカが飛んだりヤマセミに出会ったりして、いっぺんに気に入りました。この7年間の中で多い年には100日くらい、少ない年でも50日は根田茂に通って、地元住民に移り住んでどうかとまで言われるほど根田茂が好きになっております。そこで出会う生き物たちの事をいつも考えておりましたが、ダム建設予定地だという事を知って非常に残念に思いました。盛岡市周辺にはダムに影響されない川は築川しかありません。とても残念に思いました。ダムができることで環境が変化してしまう事は、他のダムが建設された地域を見れば明らかです。ダムに影響されない水が流れ続ける川、先程、関山先生がおっしゃった命が循環し続ける川を残したいものだと考えます。治水上の問題とかを議論されていますが、私たちは真剣に川とどのように向き合って、子供たちにそれをどう伝えるかこの場で知恵を出し合って良い治水対策を提言できたらと考えております。

吉田(久)委員

盛岡河川漁業共同組合という立場で出席しておりますが、生まれも育ちも築川で水の恐怖は身にしみております。漁協の立場で申しますと、築川は以前に比べ魚が増えています。中津川に鮭が溯上しているのも実は、築川において鮭を採捕して採卵してその稚魚を中津川に放流しているからです。その数はおよそ30万尾ほどになります。この活動は中野小学校や川目小学校、市内では本町商店街など色々な団体が放流会に参加して川に親しんでおり、市民は川や水に対して大変関心をもっております。県に対し子供たちが川に行って遊べるような施設を造ってもらえるように、中野小学校PTAと一緒に陳情した事がありました。その意見が取り上げられたのかどうかはわかりませんが、国土交通省の親水計画にのりまして中野小学校前の河川・護岸工事

が出来上がりました。葛西橋を中心に上下流に 2, 3 箇所あるが、以前に工事された川は護岸が高く、当然、川に降りられません。築川は、流速が早く増水すれば大変な流速になり、地元では暴れ川と称して恐れております。私も川べりに住んでおりますので昔は雨が降れば橋が全て流されました。現在はそれほどではありませんが、昔はその洪水で学校を 1 週間、休まざるをえない経験が小学校の頃に 2, 3 度あります。そのような経緯がありまして治水に関しては大変興味があります。ただ河川と治水は面倒な関係にあり皆さんの意見を聞きながら、私達の意見も提言していきたいと思っております。

吉田（謹）委員

三和水利組合の組合長です。平成 14 年の 6 号台風で築川橋上流の左岸が決壊寸前までいった地域の代表もしております。今回資料(資料 No. 2)の平成 14 年の写真 14 ページにもあるが、65 年以上もここに育っているがこの決壊寸前になった堤防は昔から何度も堤防が破れている。昨日のテレビで放映している状況を見るにつけても昔堤防が決壊した時の様子が目に浮かびます。この度の懇談会では平成 14 年の洪水写真だけでなく、昔の資料等があれば皆さんも水の恐ろしさを認識できるのではないかと思いますのでお願いします。

吉田（新）委員

私は川目地区の会員になっておりますが生まれは宇曾沢です。今日、5 号橋の上からの眺めがすばらしいと思いました。下から見上げると橋の上から自動車が墜落したらどんなことになるのか考えておりました。昭和 20 年代には私は子供でしたが築川は水深が深く、2 から 3 m 位ありました。子供の頃は泳いだり潜ったりして魚を沢山採ったものです。年々、砂子沢の奥からブナ林が伐採され自然の水が減少しており、鮭鱒の魚類が溯上できるのか心配です。しかしダム計画が新聞発表では縮小されるようだがその場合、国道 106 号と根田茂川の両方が堰堤（貯水池）となるのか確認したい。

吉田（俊）委員

森林組合の立場でお話するのは本意ではありません。それは森林は緑のダムですからダムについて立場上話したくない。ダム対策協議会が平成元年に結成されまして、私は地域住民の方々と一緒にダムは必要ない水の必要性も少ないと主張して反対活動していました。しかしダム建設が決まってしまう、平成 6 年 6 月には県議会も市議会も事業採択したわけです。そこで我々はダムの水没による過疎地域に対し支援しようと盛岡東部地域づくり推進協議会をつくり、ダム地域に指定された人達を支援する会を発足させ、盛岡市の理解が徐々に進み盛岡市職員のサポータークラブが出来て支援している状況です。不本意ながらダム建設は決定したのだから進める方向で考えている。八幡委員のように地域住民よりクマタカが大事で反対活動を行っている方もいらっしゃると思いますが、私達は建設を前提に考えている。結論としてはあまり内容を掘り下げますと次回のお席が意味の無いものになりますが、皆さんは実際現地を足である

いて見ていただいて体験的にダムの必要性を考えて下さい。3日ほど前に転勤間もない築川ダム事務所の所長と次長を2時間ほど現地案内しました。その際に川目トンネルの旧道が流され寸断されて、その土砂が沢田橋の浄水場入り口付近の中洲になっている場所を案内しました。その場所の土砂は平成元年に撤去したがまた中州ができています。そのような場所を案内せずに橋を案内するのでは事業の趣旨に沿っていない。また皆様方、特に学識経験者と呼ばれる大学教授の方々は歩いて現地を見ていただき、洪水調整の必要性を認識して頂きたい。私は10歳の昭和13年に死に損なった。それは築川支流の沢水が逆流して起こった事故だった。それは他の地域の被害をみても多くあります。実際の現地被害を知るためには現場を十分に把握する必要性を感じます。バスの車上から眺める程度では本当の川の状況はわかりません。再度現地調査を行う事を提案します。

堺会長

短い時間でありましたが委員の皆様の築川に対する思い、自然そのものに対する考え方、懇談会に対する注文等がありました。本日は第1回ということもありまして、築川についての大雑把なお話をいただきました。もっと沢山の意見を言いたかったかと思えます。

次回以降はテーマを絞って議論をしていきたいと思えます。先ほどの事務局の説明にありました河川法の中での治水・利水・環境の順番とするわけではありませんが、懇談会の内容は治水・利水・環境の順に議論をしてはいかがでしょうか。今日のように全てを盛り込んでいると議論が集中しませんのでテーマを絞って議論していくという事でいかがでしょうか。よろしければ根拠はありませんが、河川法の順番の治水から議論していきたいと思えます。

それから、限られた時間の中で皆さんに集まっていますので、議事を円滑に進めるために事務局は出来るだけ詳しく尚且つ解り易い資料を提供して頂きたいと思えます。次回の治水に関しての資料についてこのような資料を準備してほしいという提案はございますか。また、先ほどの委員の意見にもありました平成14年度の洪水写真だけではなく今までの洪水記録を提供してほしいという意見もございました。

吉田(俊)委員

先ほど申しあげましたとおり、今破壊されている現状を写真でグローバルに写して頂いて、現状がわからないと理論構成はいくらでも出来ますので、お互いに思いがみんな別々ですから、そこに住んでる人には住んでる人の思いがあります。例えば、ある反対の団体では京都から大学の先生を呼んできたそうですが、それでは解りません。京都の先生に聞いても、一ヶ月も居て、雨降の時に居ないと解らない事もあります。写真で結構ですから。

内田委員

今、写真ということで昭和22年に撮られている写真、これはたぶん米軍が撮った

ものだと思うのですが、森の変化等を見る上での基本になると思いますので、築川流域全部の写真をぜひ提供して頂きたいと思います。緑のダムというお話もありました。昭和22年の地形、現在の森の様子等を考えるのにも必要だと思います。

藤原委員

当初計画より利水計画が減っているダム計画になると思いますが、ロックフィルダムという岩で堤体を築造したダムの方が水を汚さないという研究が結構あると親しい教授からも聞く事がありました。懇談会の中で勉強したいので、ロックフィルダムについて比較検討はしたと思いますが、規模が縮小になった事により可能なのか、資料があれば提供して頂きたいと思います。

八幡委員

治水について話し合うということですが、事業者からは治水対策としてどのような計画、治水計画案からダム計画までを提供されるという事であれば、ボリュームの大きな内容になると思います。それで事業者から出されている治水整備計画とダム構想の中でいろんな対案が出されていますが、私達に解るような資料を提供して頂きたいと思います。もう一つは、もしダムということであれば今日、提出されている意見書のなかにも地質的にかなり北上山地は、もまれた地形ですので高い位置ほど風化が進んでおり問題があるし、ダムの費用がかかなり増額になった理由にも地質の問題がありますので、そういう部分で高透水性の地質にダムが造られていくという事への不安もありますので、そういうところの資料、それからもうひとつは、当初計画から増額された理由のなかでダム本体工事費が増額されていく中で、河川の単独改修案も突然増額になっていく、なぜ当初計画の河川改修案を採用しなかったのかという理由も解るような資料を提示して頂きたいと思います。

堺会長

他にございませんか

細矢委員

岩手県内の濁水の新聞記事(資料 No. 2 P. 17)がありますが、資料があれば築川流域の水害が掲載されている過去記事等の資料を提供して頂きたいと思います。

堺会長

それは、洪水も濁水もですね。

細矢委員

はい、そうです。

堺会長

他にございませんか

内田委員

治水という意味で護岸施設等がございますが、近年では近自然工法(多自然工法)がございます。100年以上前に作られた制水施設も北上川では有効に働いている施設もあります。木の杭を打つだけでとか、そういった施設の効果、近自然工法(多自然

工法)で施工した実質的効果のデータがあれば、議論できると思いますので、そういった資料を提示していただければと思います。

堺会長

他にございませんか

八幡委員

先程、お願いしたシュミレーションについてはどうですか。

堺会長

ある計画が実施された場合、川の環境がどうなるのだろうかということですね。そのへんは県のほうでは既に検討されていますか。まだであればそれは時間のかかるシュミレーションだと思うのですが、可能な限り用意していただく、ということでしょうか。

治水について次回、一回では到底終わりそうにないので、今、こういう資料が必要だというのが色々出てきましたけど、それが一度に提出されるとは思いません。おそらく、テーマを治水の中で更にいくつかに分けてそれに応じた資料が提出されると思います。皆様からいただいた要望は事務局のほうで用意すると思いますが、それは、その時々で必要になった段階で出てくると思います。そのへんはご了承いただきたいと思っています。

他にございませんか

藤原委員

可能であれば、魚道を実現して欲しい。川を小さい頃から見ているので、ダムに魚道がないと、死んだような川になる場合もありますので、最後まで望みを持ちたいので、よろしくお願いします。

堺会長

他にございませんでしょうか

関山委員

各委員からの要望を聞きますと延々と続くような気がしますが、事務局としては懇談会を何回ぐらい想定しているのでしょうか。

それから懇談会は専門委員会でも何でもないので、専門的で深く詳細な資料を出されて検討しろと言われても無理なので、一般市民にも解るような、解り易い資料にまとめていただいて、皆が、合意に達せられるような資料でないと、解る人だけが解って、他の委員は聞き役にまわるかたちになるのではないかと思う。

資料は最近、どこの会議に行ってもパワーポイントで説明されるが、パワーポイントの原稿をそのまま縮小して資料に綴じられても、高齢化社会ですから、私も含めて、薄暗い部屋の中で細かい字はとても見えないのです。さりとして、投影されたものを見るといっても、遠くから見ても、細かいところは殆ど解らないという状況ですので、少し字を大きくして、ポイントを絞ってメリハリのある資料を作って頂きたいと思

ます。詳細なデータは必要であれば示せばいいわけで、何でもかんでも資料を詳細にだす必要はないのではないかという気もします。そういった工夫もよろしく願います。

堺会長

事務局のほうには、正確な情報を、わかりやすい形で提出して頂きたいと思いますので、よろしく願います。

時間も過ぎておりますので今日の議事は締めたいと思いますが、事務局のほうより今後のスケジュールをこの後お話いただこうと思いますけど、それが済めば今日の議事は終了したいと思います。事務局で予定を考えてらっしゃいますか。

事務局（小関総括主査）

治水に関してのご意見をお伺いたいということで、当初、第2回を11月下旬と考えておりました。

年度内にもう1回ないしは2回、開催して、先ほどもお話ありましたように利水・環境にテーマを絞って行う予定で考えておりました。今、いろいろな要望が出まして、資料等の要望がかなり出されたため、これにつきまして、どのように進めていくのか、要望にどのような形で答えていくか、どのくらいでできるのか即答致しかねますので、ご要望について検討してからになります。当初の予定は11月下旬でしたが、場合によっては、もう少し時間が必要なことも考えられるといったような状況です。

堺会長

資料が揃い次第、開催されるということになるかと思いますが事務局のほうもよろしく願います。

それでは時間も消化しているので、これで一応、議事を終了したいと思います。みなさん、熱心なご討議ありがとうございます。今日はどうもありがとうございました。

9. その他

司会

堺会長ありがとうございました。

さきほど事務局のほうから何回開く、という話がありましたが、これは一応、資料を収集してみなければ、どのくらいになるのかわかりかねますので次回の時にはそのへんを出す、ということにしたいと思います。

一般の傍聴者の皆さんの中から、なにかありましたらお願いします。

一般傍聴者

私は、雫石の御所ダムの上流部に住んでいるものです。今日、築川流域懇談会に築川の上流域に住んでいるかたが少ないようですが、今日は下流域の懇談会でしょうか。ダムが建設されて10年後30年後に、ダムの上流部がどうなるかを体験してきているものです。

まず、一つはダムの上流部の利水権の保護の問題について当局はどのように扱っていくのかということです。河川管理者は、ダム建設時に安定した水を供給することを下流側に約束させられる。そうすると上流側は勝手に水を使用できなくなる。過去に湯田ダムで建設省を相手どり、大問題になっていて未だまともに解決していません。ダムの上流の人たちは一滴も水を使えないのです。新規の利水参加ができなくなったのです。それを上流部の人たちがどれだけ知っているのか。薔薇色の夢を描いているかもしれないが、何もできなくなってしまってからでは笑えない話です。

二つめは、治水の問題です。私は葛根田川の上流に住んでいますが、葛根田川にどんどん砂防ダムがつくられています。それは御所ダムの堆砂をふせぐためです。上流部に砂防ができるわけです。さきほど、森林組合の方(吉田(俊)委員)が、ダムの周辺付近が決壊しているということで、それは、築川に土砂をいっぱい運ぶ可能性があるわけです。そうすると、砂防ダムが上流にできる可能性があるわけです。しかし、堆砂を抑えてしまうと、河川の上流の生態系が大きく変わる可能性がある。御所ダムでは最近、青サギが多くなって上流域の養魚場とか、家庭用の池とかで鯉とかイワナとかヤマメを食べまくっている。知らない人は「鳥が帰ってきて環境が良くなった。」と、いうが認識違いだ。御所ダム建設の不満が今ごろになって噴きだしているが、もう手遅れです。そのようなことにならないように、下流域の問題も議論されなければならないが、上流域の問題をどのようにするのか、綿密に議論してほしい。議論をしないで、ダムを造ってはいけない。以上、私の体験談としての話です。

司会

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

八幡委員

岩手にはおいしい水がたくさんあるので、何も他所の自治体の水をださなくても、ここでこういう会がある場合には、県産の水をよろしくお願ひします

10 . 閉会

司会

時間もだいぶ過ぎましたのでこのあたりで会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。